

0. 調査概要

(1) 調査の目的

青梅市では、地域全体で支え合い、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちの実現を目指し、令和6年度に「第5期青梅市地域福祉計画」を策定しました。

本アンケート調査は、18歳以上の市民3,000人を対象に実施し、**地域福祉に対する意識や地域活動への参加状況などの実態を把握**するとともに、地域共生社会の推進と市民生活の向上に資すること、さらに**計画の中間見直しに反映することを目的**として実施したものです。

(2) 調査概要

◇調査対象者：18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）

◇調査期間：令和8年3月27日（金）～4月28日（火）

◇調査方法：郵送配布・郵送又は専用webページへの回答による
本人記入方式

(3) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
全体	3,000件	1,361件 (紙：852件、WEB：509件)	45.4%
前回調査	1,000件	362件	36.2%

※前回調査は、令和5年5月に実施した青梅市「地域共生社会を推進するためのアンケート調査」を表します。
※前回計画との比較において、概ね10ポイント以上の差があるものに対して言及しています。

(4) 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、資料内の分析文、グラフにおいても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇地区別の区分けは以下のとおりとなっています。

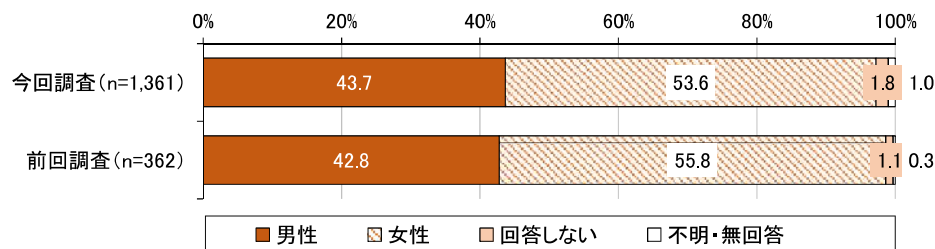
圏域	地区名	地区
第1地区	勝沼、西分町、住江町、本町、仲町、上町、森下町、裏宿町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町、日向和田	青梅地区
	東青梅、根ヶ布、師岡町	東青梅地区
第2地区	駒木町、長淵、友田町、千ヶ瀬町	長淵地区
	畑中、和田町、梅郷、柚木町	梅郷地区
	二俣尾、沢井、御岳本町、御岳、御岳山	沢井地区
	河辺町	河辺地区
第3地区	吹上、野上町、大門、塩船、谷野、木野下、今寺	大門地区
	富岡、小曾木、黒沢	小曾木地区
	成木	成木地区
	新町、末広町	新町地区
	藤橋、今井	今井地区

青梅市「地域共生社会を推進するためのアンケート調査」結果概要

1. 回答者属性

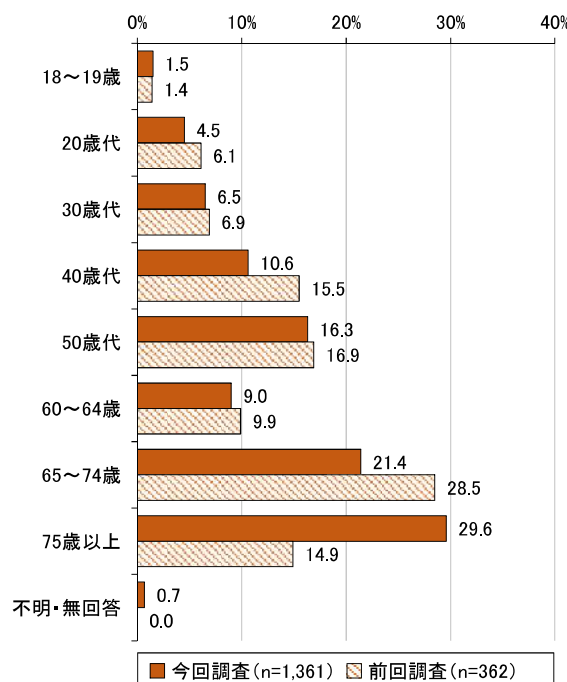
性別【問1】 <前回と同じ設問>

今回調査では、「女性」が53.6%、「男性」が43.7%、「回答しない」が1.8%となっています。
前回の調査と比較すると、大きな差はみられません。



年齢【問2】 <前回と同じ設問>

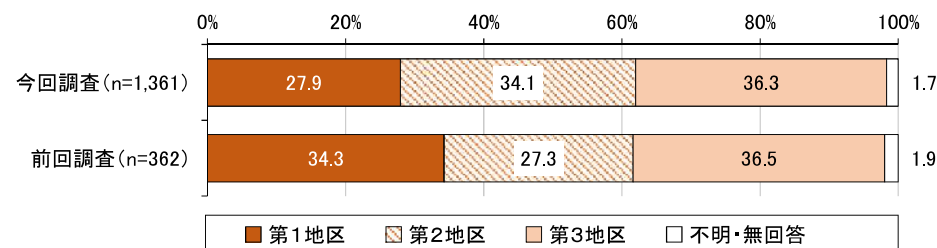
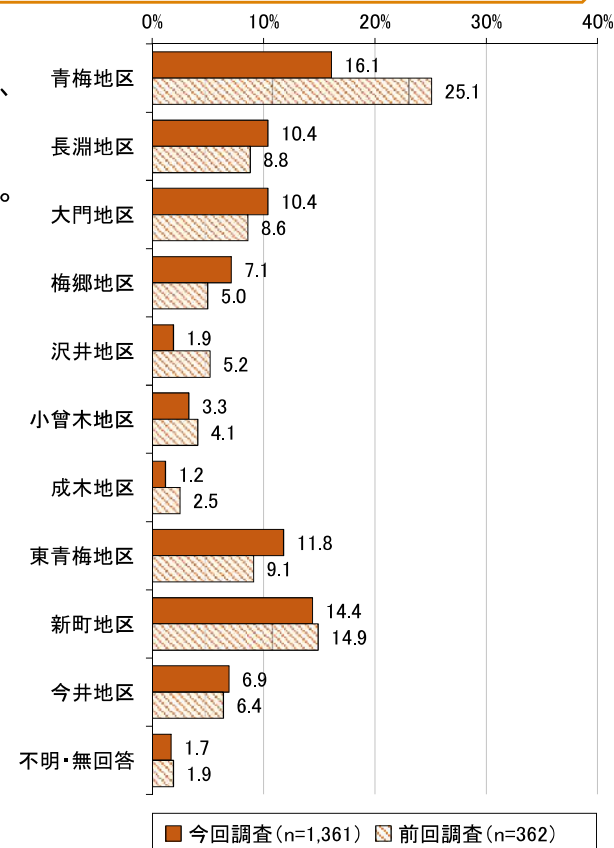
今回調査では、「75歳以上」が29.6%と最も高く、次いで「65～74歳」が21.4%、「50歳代」が16.3%となっています。
前回の調査と比較すると、「75歳以上」が14.7ポイント増加しています。



居住地域【問3】 <前回と同じ設問>

今回調査では、「青梅地区」が16.1%と最も高く、次いで「新町地区」が14.4%、「東青梅地区」が11.8%となっています。
前回の調査と比較すると、「青梅地区」が9ポイント減少しています。

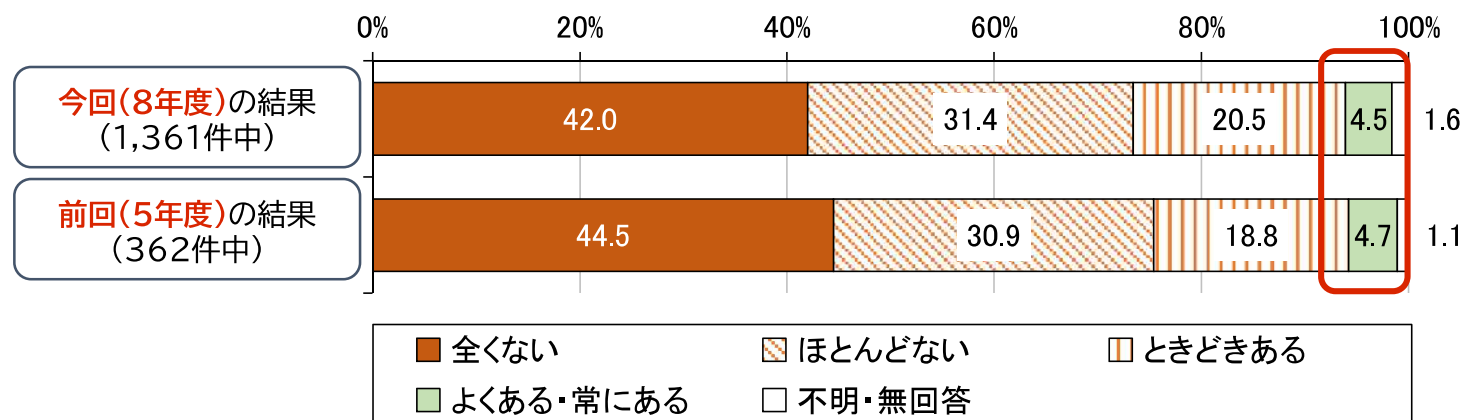
3圏域別にみると、今回調査では、「第3地区」が36.3%と最も高く、次いで「第2地区」が34.1%、「第1地区」が27.9%となっています。
前回の調査と比較すると、大きな差はみられません。



① どのような人が孤独・孤立を抱えているか 【問20】 <前回と同じ設問>

- 孤独を感じることがあるかについて、「全くない」が42.0%と最も高く、次いで「ほとんどない」が31.4%、「ときどきある」が20.5%となっています。前回調査と比較しても、同様の傾向となっています。
- 「よくある・常にある」と回答した割合【孤独感が高い人】は、4.5%で、前回の4.7%から大きな差はみられません。

孤独感が高い人の割合
【3年前との比較】

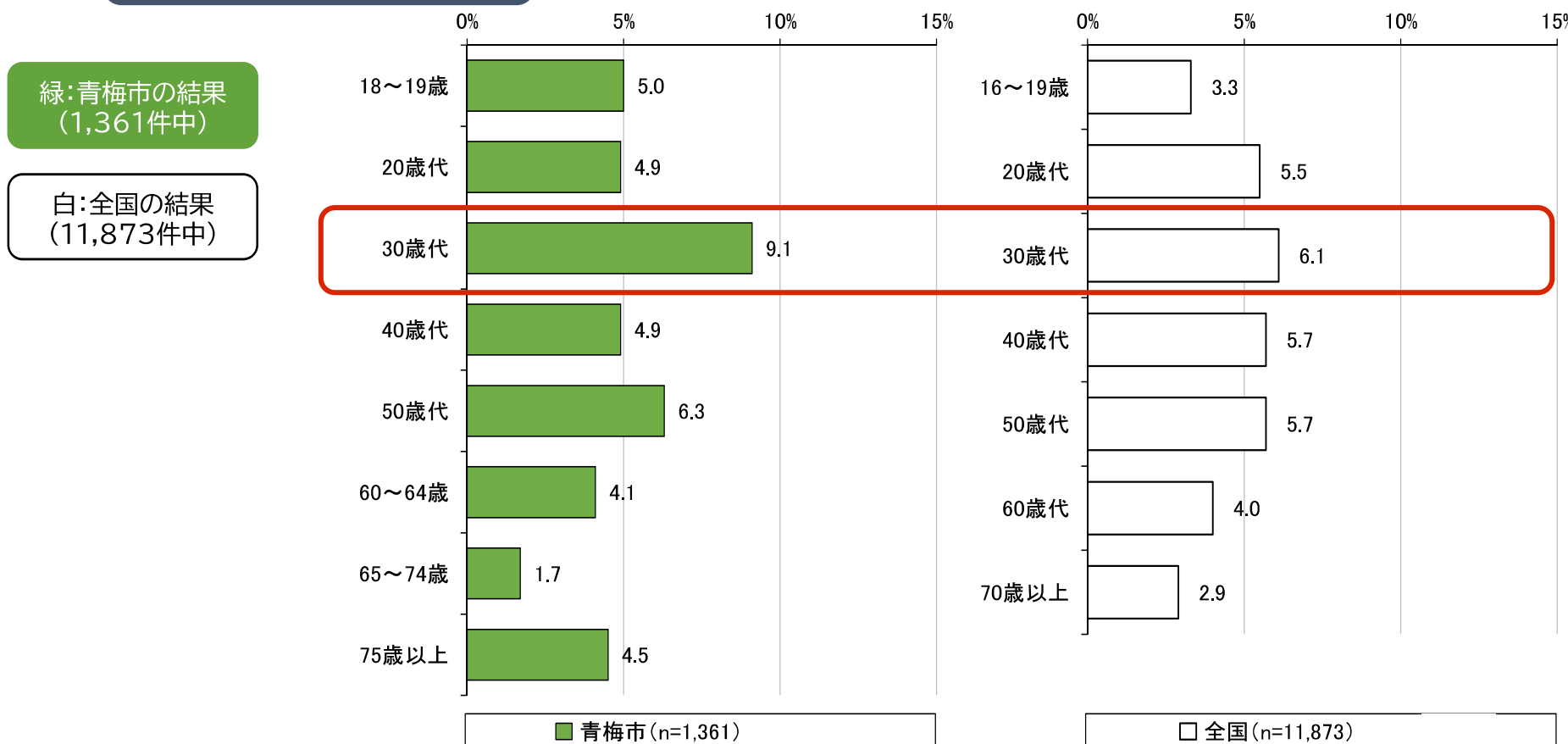


① どのような人が孤独・孤立を抱えているか 【問20】

- 孤独を感じることがあるかについて、「よくある・常にある」と回答した割合は、市全体で4.5%となっています。年代別にみると、30歳代が9.1%と全体に比べてやや高くなっています。
- 国全体の数値と比較すると、「30歳代」で国よりやや高くなっているものの、大きな差はみられません。

孤独感が高い人の割合 【年齢別・国比較】

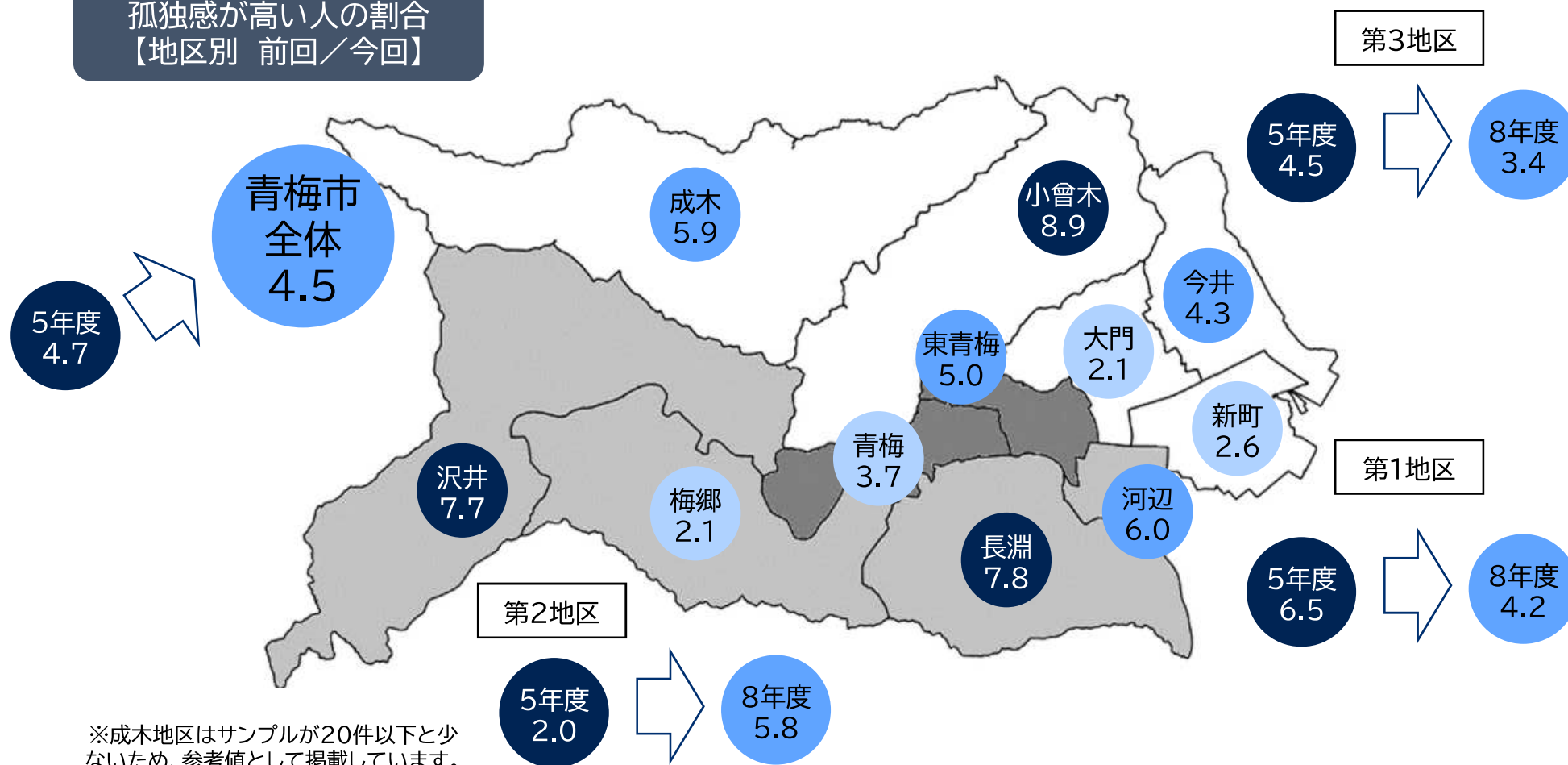
※孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(令和7年実施)参照



① どのような人が孤独・孤立を抱えているか【問20】 <前回と同じ設問>

- 孤独を感じることがあるかについて、地区別でみると、小曾木・長淵・沢井地区でやや高く、大門・梅郷・新町地区で低くなっています。
- 前回の調査と比較すると、第1地区、第2地区、第3地区ともに大きな差はみられません。

孤独感が高い人の割合
【地区別 前回／今回】



② 日常生活で困っていること【問8、8-1】 <前回と同じ設問>

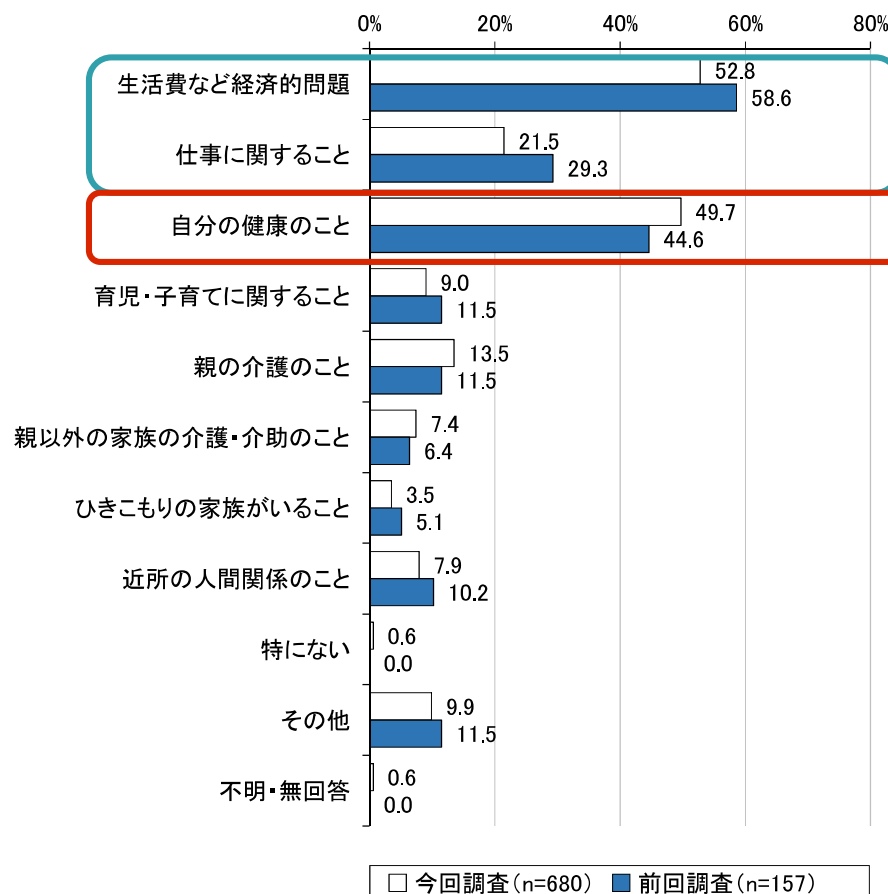
- 日常生活で困っていることがある割合は50.0%と、前回の43.4%から6.6ポイント増加しています。
- 困っていることの内容については、「生活費など経済的問題」が52.8%と最も高く、次いで「自分の健康のこと」が49.7%、「仕事に関すること」が21.5%となっています。
- 前回の調査と比較すると、「生活費など経済的問題」と「仕事に関すること」がやや減少し、「自分の健康のこと」がやや増加しているものの、大きな差はみられません。

日常生活で困っていること
【3年前との比較】

生活で困っていることが
“ある”割合

5年度
43.4

青梅市
全体
50.0



② 孤独・孤立を抱えている人はどのようなことに困っているか 【問8、8-1】

- 「**孤独感が高い人**」は、困っていることがある割合が80.3%と、市全体(50.0%)と比べて**生活での困りごとを抱えている割合が高くなっています**。
- 「**孤独感が高い人**」において、生活での困りごととしては、「**生活費など経済的問題**」「**仕事に関すること**」「**自分の健康のこと**」「**近所の人間関係のこと**」が市全体と比べて**高い傾向がみられます**。

生活で困っていることが
“ある”割合

日常生活で困っていること

白:市全体の結果
(1,361件中)

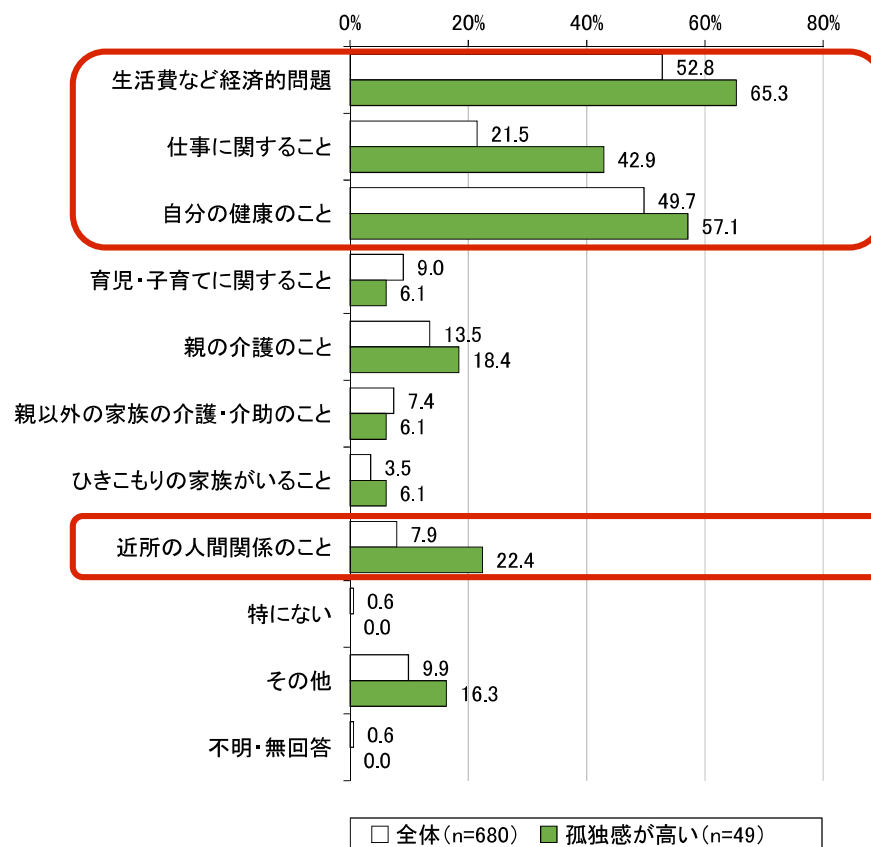


市全体
50.0

緑:孤独感が
高い人の結果
(61件中)



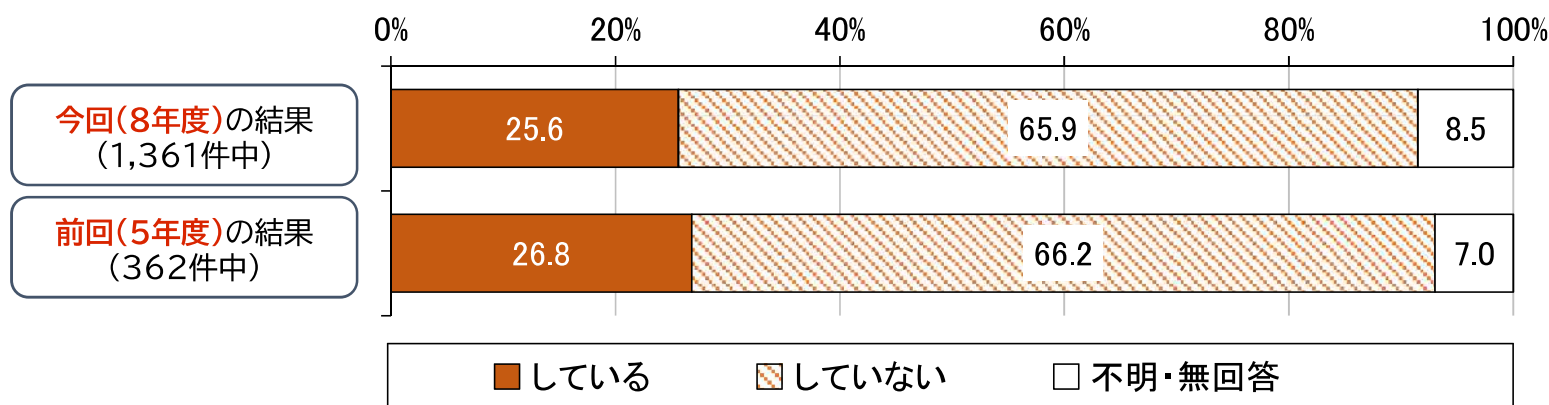
孤独感あり
80.3



③ 相談状況【問8-2】 <前回と同じ設問>

- 困りごとをどこかに相談しているかについては、「している」が25.6%、「していない」が65.9%となっています。
- 前回の調査と比較すると、回答傾向に大きな差はみられません。

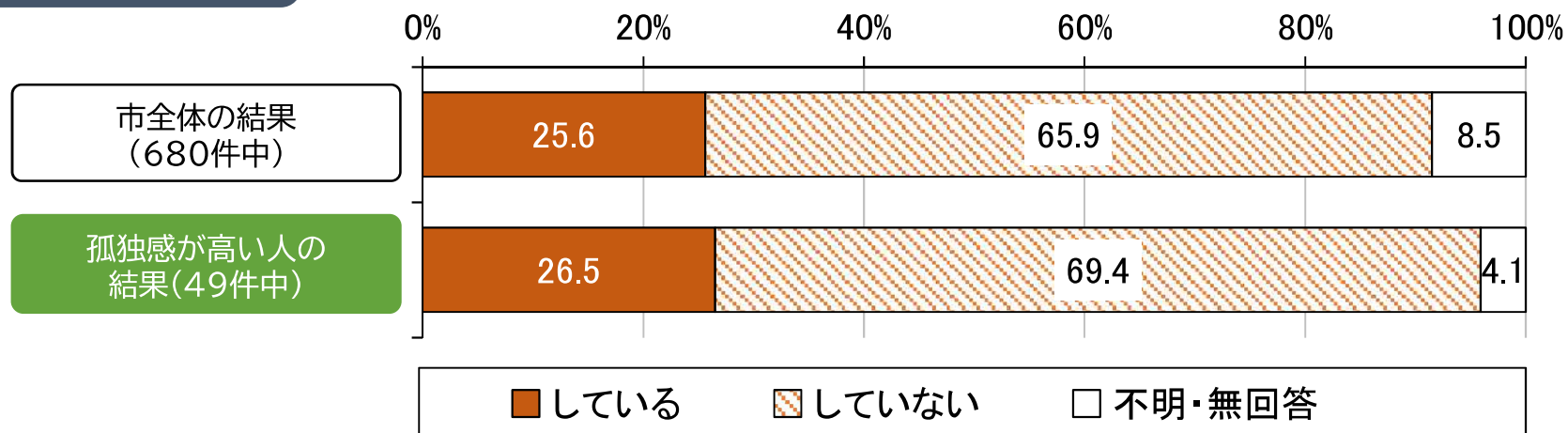
困りごとがある人の相談状況 【3年前との比較】



③ 孤独・孤立を抱えている人の相談状況【問8-2】

- 困りごとをどこかに相談しているかについては、「している」が市全体で25.6%、「**孤独感が高い人**」で26.5%と、大きな差はみられません。

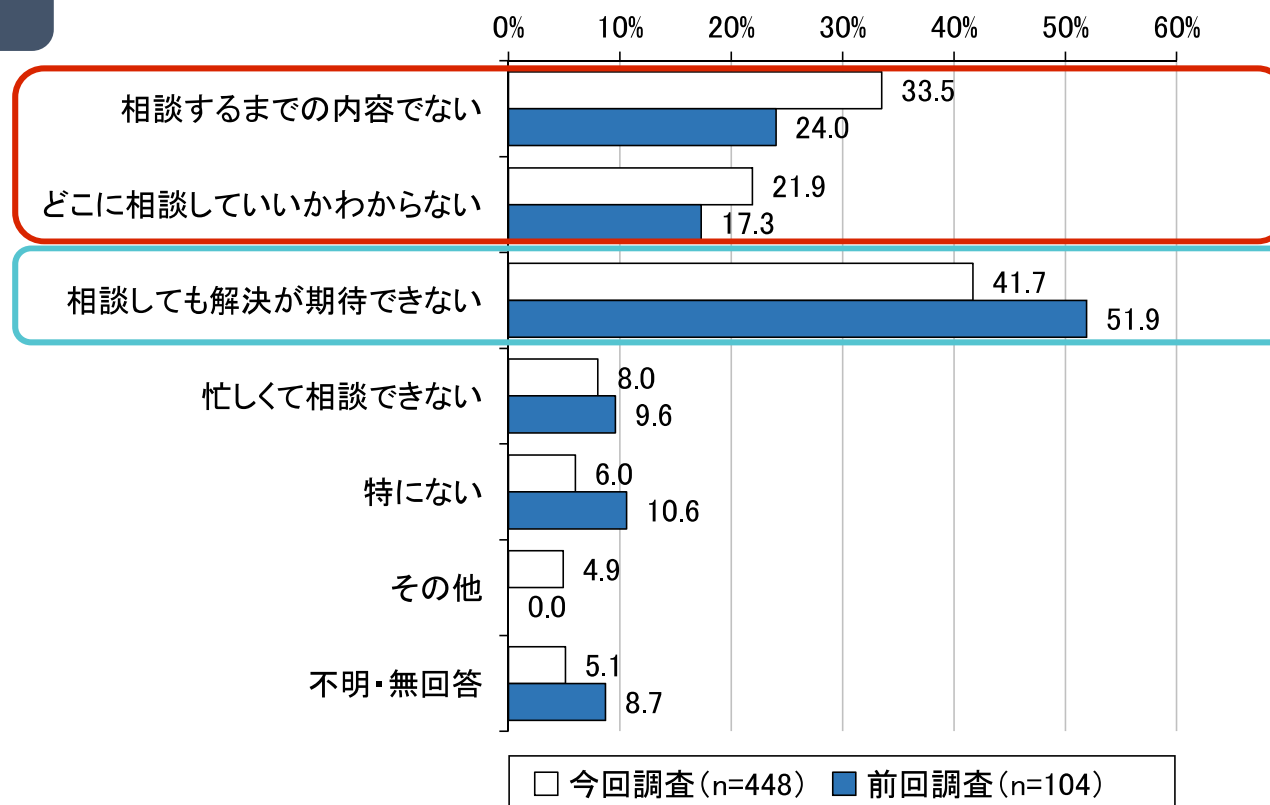
孤独・孤立を抱えている人の 相談状況



④ 相談状況(困りごとを相談していない理由)【問8-4】 <前回と同じ設問>

- 困りごとを相談をしていない理由について、市全体では「相談しても解決が期待できない」が41.7%と最も高く、次いで「相談するまでの内容でない」が33.5%、「どこに相談していいかわからない」が21.9%となっています。
- 前回の調査と比較すると、「相談するまでの内容でない」が9.5ポイント、「どこに相談していいかわからない」が4.6ポイント増加し、「相談しても解決が期待できない」が10.2ポイント減少しています。

相談していない理由
【3年前との比較】



④ 孤独・孤立を抱えている人の相談状況(困りごとを相談していない理由) 【問8-4】

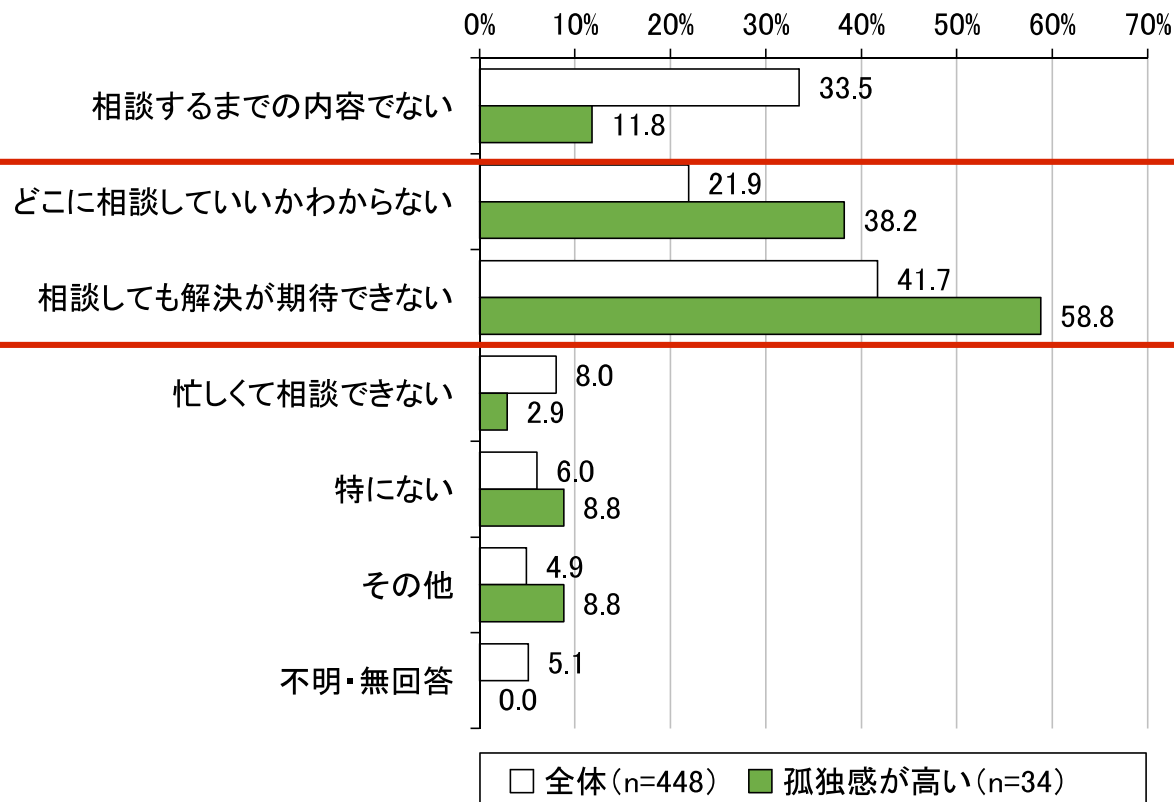
- 困りごとを相談をしていない理由について、「**孤独感が高い人**」の相談していない理由については、「**どこに相談していいかわからない**」、「**相談しても解決が期待できない**」が市全体と比べて10ポイント以上高くなっています。

相談していない理由

白:市全体の結果
(448件中)



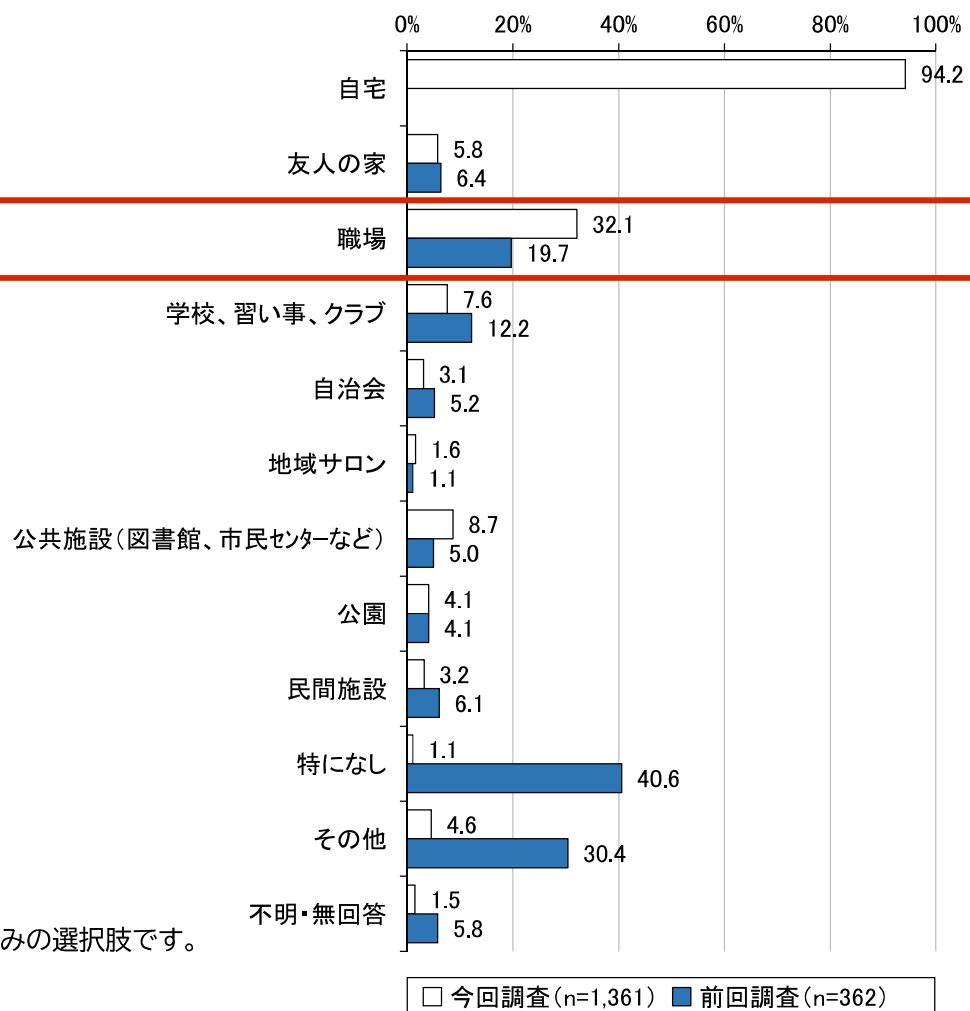
緑:孤独感が
高い人の結果
(34件中)



⑤ 居場所について【問23】 <前回と同じ設問>

- 居場所だと思う場所について、市全体では「自宅」が94.2%と最も高く、次いで「職場」が32.1%、「公共施設(図書館、市民センターなど)」が8.7%となっています。
- 前回の調査と比較すると、一部の選択肢が異なるため単純な比較は難しいが、「職場」が12.4ポイント増加しています。

居場所だと思う場所
【3年前との比較】



※「自宅」は、今回調査のみの選択肢です。

⑤ 孤独感を感じている人の居場所について【問23】

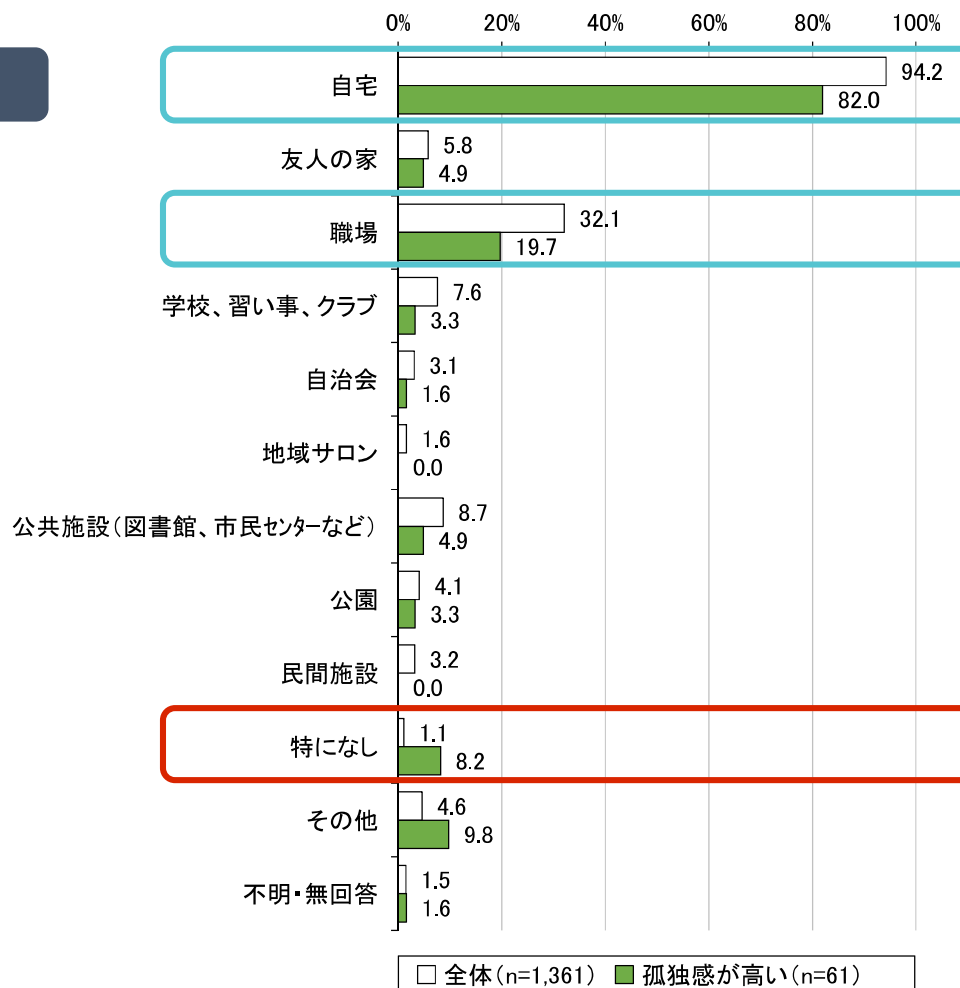
- 「孤独感が高い人」は、市全体と比べて「特になし」との回答がやや高く、「自宅」や「職場」が10ポイント以上低くなっています。

居場所だと思う場所

白：市全体の結果
(1,361件中)



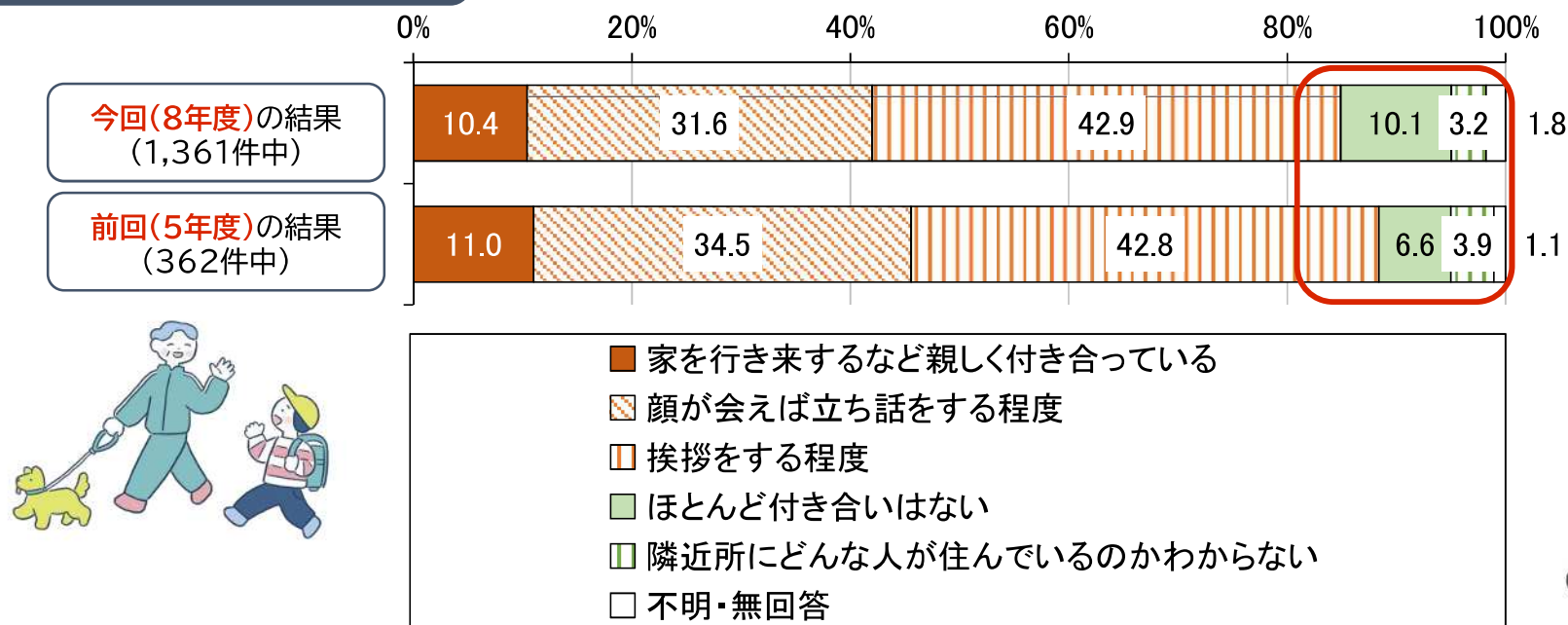
緑：孤独感が高い人の結果
(61件中)



① ご近所の方との関係性について【問13】＜前回と同じ設問＞

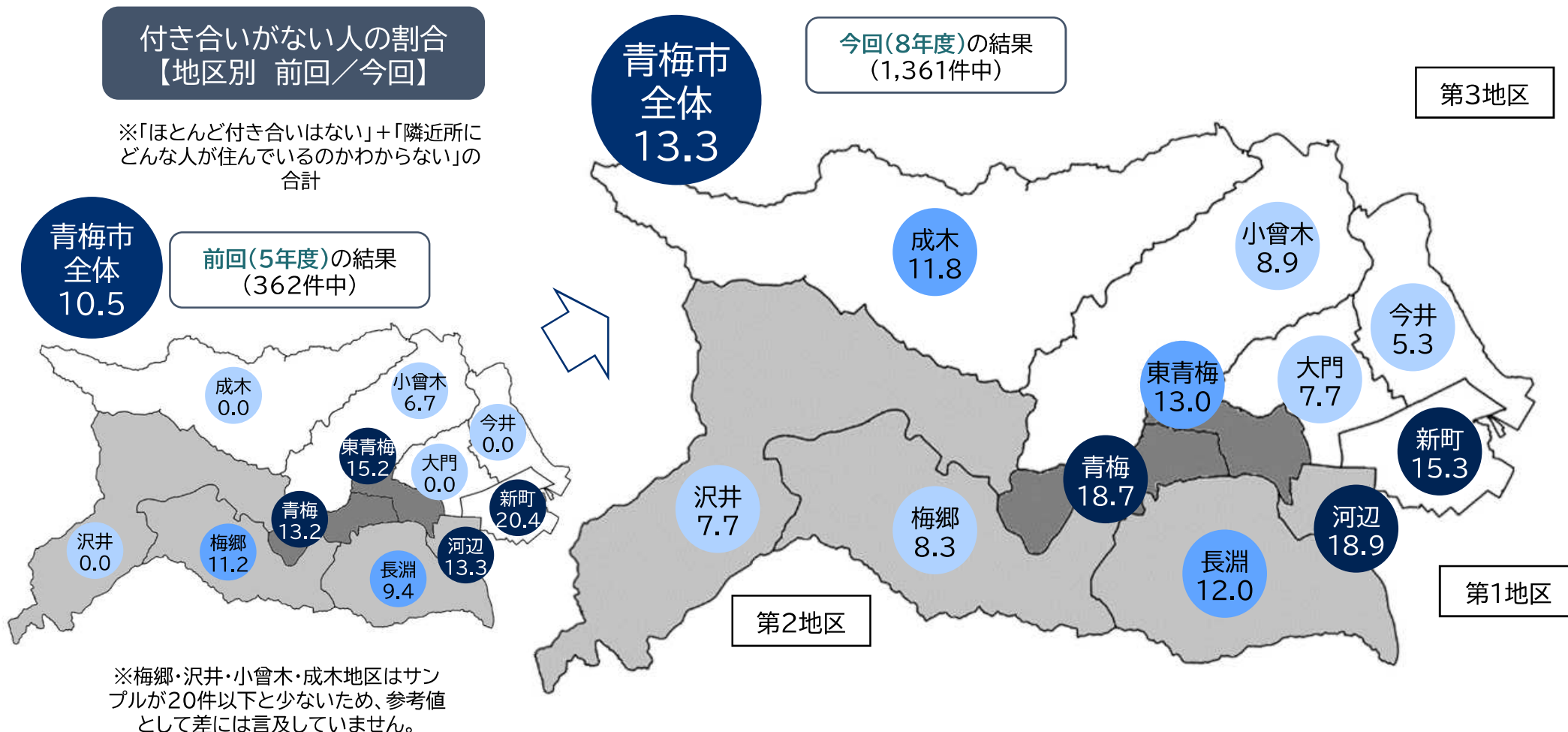
- 普段の近所付き合いの程度については、「挨拶をする程度」が42.9%と最も高くなっています。
- 近所の人との関係について、前回の調査と比較すると、「ほとんど付き合いはない」がやや増加しているものの、大きな差はみられません。

普段の近所付き合いの程度
【3年前との比較】



① ご近所の方との関係性について【問13】＜前回と同じ設問＞

- 地区別でみると、多くの地区で、近所付き合いがない人の割合がやや増加している傾向がみられます。
- 特に、**青梅・河辺地区**で前回から5ポイント以上、近所付き合いがない人の割合が増加しています。
- 一方、**新町地区**で5ポイント以上、近所付き合いがない人の割合が減少しています。

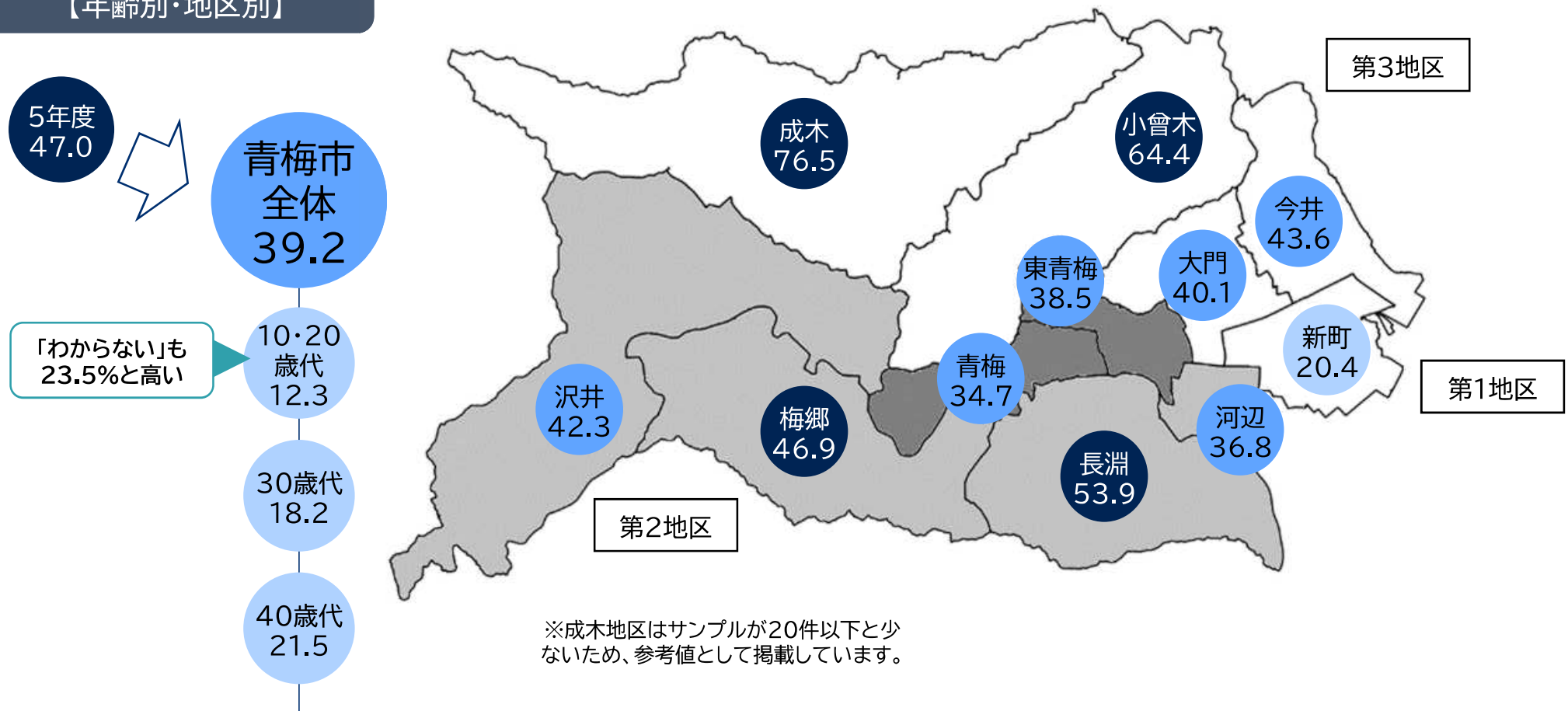


① 自治会への加入状況【問25】＜前回と同じ設問＞

- 自治会へ加入している割合は市全体で39.2%と、**前回の47.0%から7.8ポイント低下**しています。
- 地区別にみると、小曾木・成木地区で6～7割台と高く、新町地区で2割台と低くなっています。
- 年代別にみると、10・20歳代・30歳代・40歳代においては3割を下回っています。

自治会への加入割合
【年齢別・地区別】

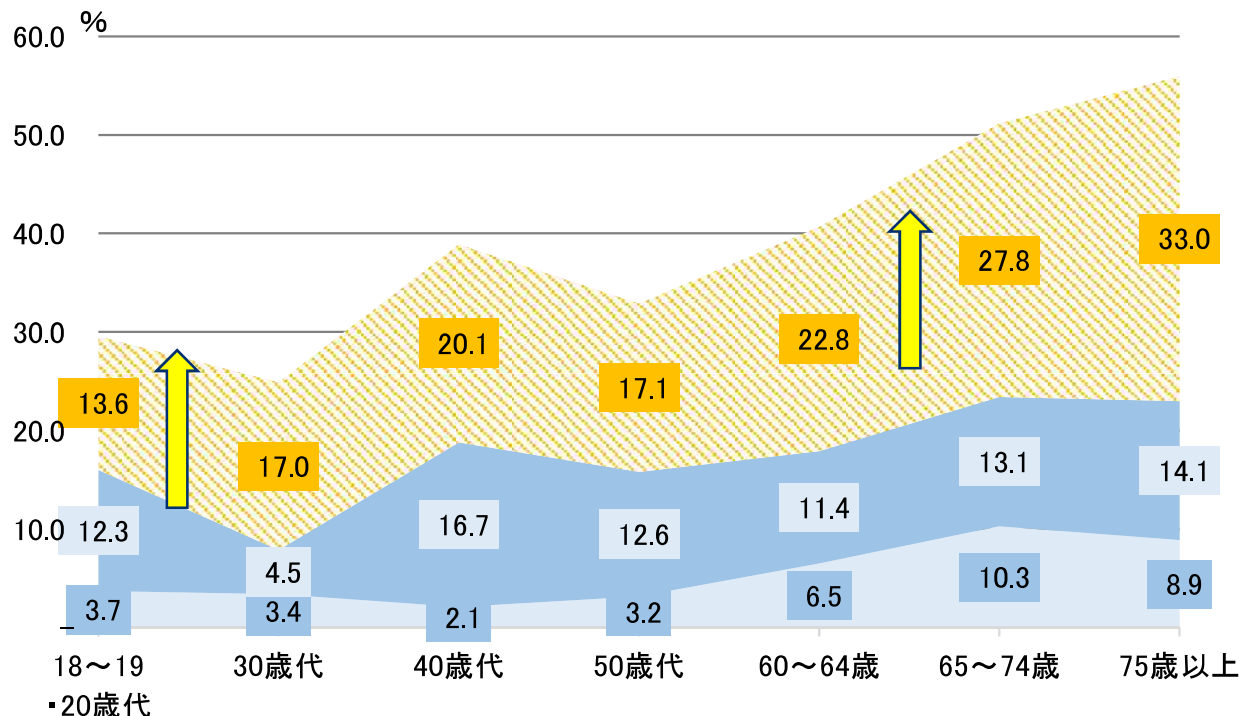
※令和8年4月1日現在の青梅市の自治会加入率は、28.42%となっています。アンケート調査結果と実際の自治会加入率には乖離があり、支会ごとの自治会加入率でも同じ傾向がみられます。



② 地域の行事や活動への参加について【問26、26-1】＜前回と同じ設問＞

- 地域の行事や活動への参加状況(ほとんど参加する＋たまに参加する)については、市全体で19.7%と、前回の20.7%から大きな差はみられません。「行事の内容により参加する」は、市全体で24.7%と、前回の28.2%から大きな差はみられません。
- 10・20歳代と40歳代以上で「ほとんど参加する」と「たまに参加する」を合わせた割合が1割台を超え、65歳以上では2割台となっています。
- 一方、**30歳代以上で「行事の内容により参加する」が2割弱から3割強**みられます。

地域の行事や活動について
【年齢別】



行事の内容により参加

5年度
28.2

青梅市
全体
24.7

ほとんど参加する＋
たまに参加する

5年度
20.7

青梅市
全体
19.7

③ 行事の内容により参加する層が“どんな活動団体の行事に参加しているか”【問26、26-1】

- 行事の内容により参加する層が“どんな活動団体の行事に参加しているか”について、**30歳代以上では、「自治会」が、18・19歳・20歳代では「スポーツ・趣味団体・サークル」**がそれぞれ最も高くなっています。
- 40～64歳では、「PTA」も上位回答となっています。

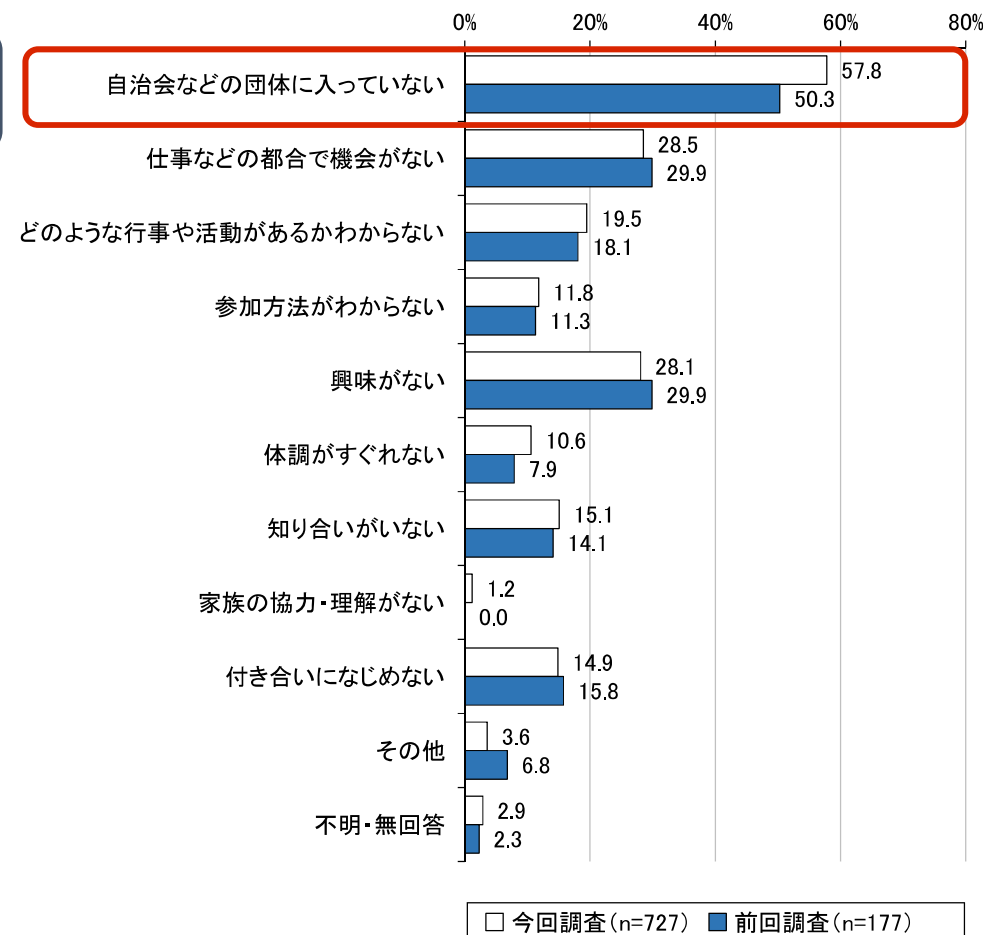
行事の内容により参加する層が
参加している行事【年齢別】

	第1位	第2位	第3位
18～19歳・20歳代	スポーツ・趣味団体・サークル	自治会	その他
30歳代	自治会	その他	ボランティア有志グループ
40歳代	自治会	PTA	スポーツ・趣味団体・サークル
50歳代	自治会	スポーツ・趣味団体・サークル	PTA
60～64歳	自治会	スポーツ・趣味団体・サークル	PTA
65～74歳	自治会	スポーツ・趣味団体・サークル	その他
75歳以上	自治会	スポーツ・趣味団体・サークル	高齢者クラブ

④ 地域の行事や活動へ参加したことがない理由について【問26-2】＜前回と同じ設問＞

- 地域の行事や活動へ参加したことがない理由についてみると、「自治会などの団体に入っていない」が57.8%と最も高く、次いで「仕事などの都合で機会がない」が28.5%、「興味がない」が28.1%となっています。
- 前回の調査と比較すると、「自治会などの団体に入っていない」が7.5ポイント増加しているものの、大きな差はみられません。

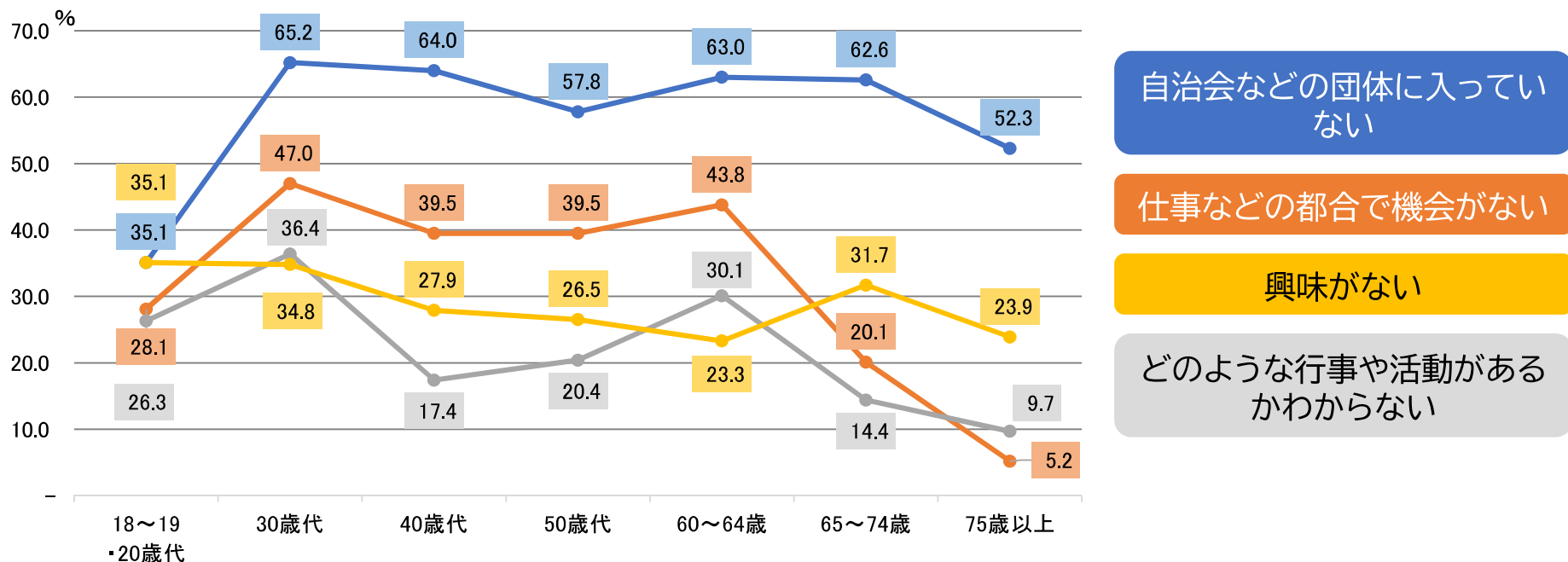
地域の行事や活動へ参加したことがない理由
【3年前との比較】



④ 地域の行事や活動へ参加したことがない理由について【問26-2】

- 地域の行事や活動へ参加したことがない理由についてみると、市全体の上位4項目は「自治会などの団体に入っていない」「仕事などの都合で機会がない」「興味がない」「どのような行事や活動があるかわからない」となっています。
- 年代別にみると、**30～64歳**では「仕事などの都合で機会がない」が高くなっています。
- また、**30歳代と60～64歳**で「どのような行事や活動があるかわからない」が3割台と高くなっています。

地域の行事や活動へ参加したことがない理由
【年齢別】

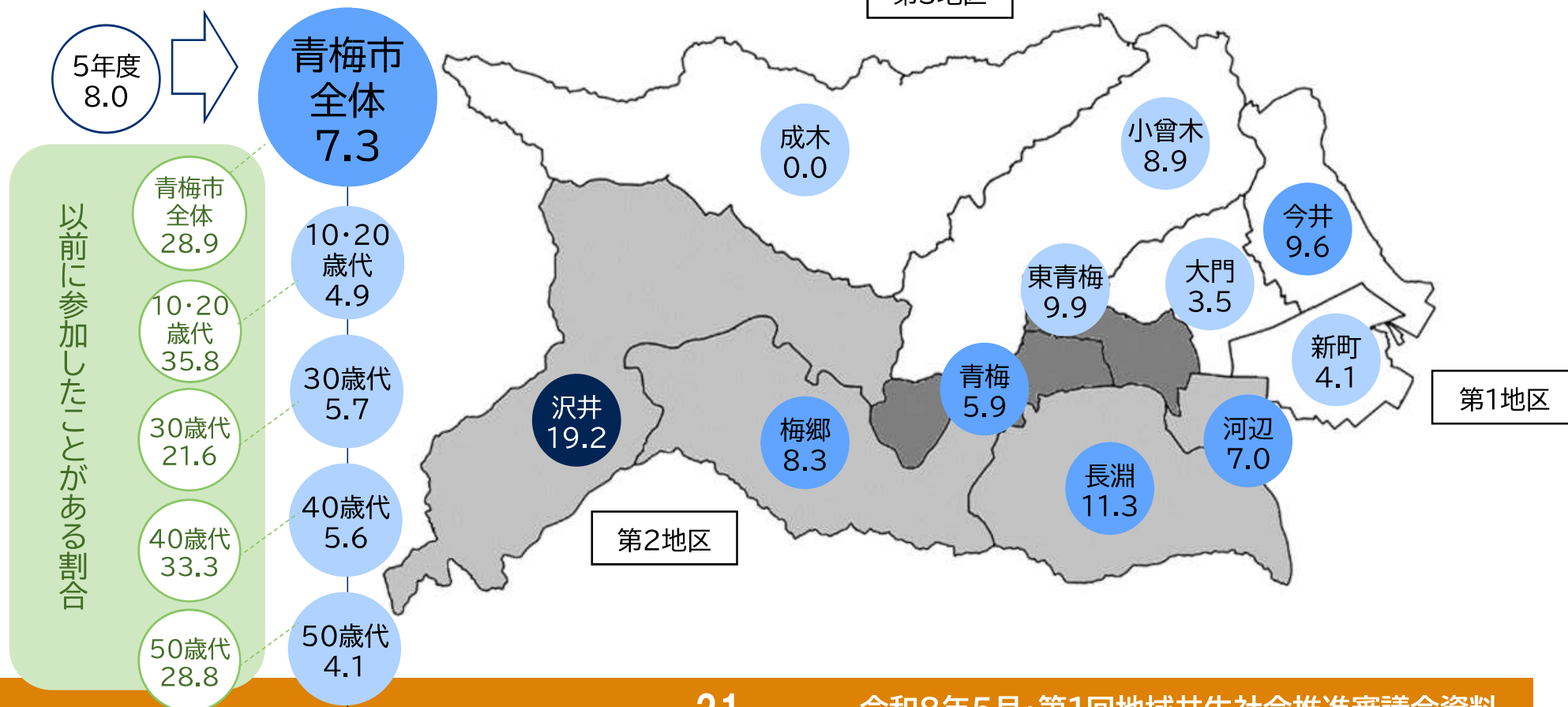


⑤ ボランティア活動の経験について【問27】＜前回と同じ設問＞

- ボランティア活動を現在している割合は市全体で7.3%で、前回の8.0%から大きな差はみられません。
- 地区別にみると、長淵・沢井地区で1割以上となっています。
- 年代別にみると、10・20歳代から50歳代においては「現在、参加している」は少ないものの、「以前に参加したことがある」割合は高くなっています。

ボランティア活動の経験
【年齢別・地区別】

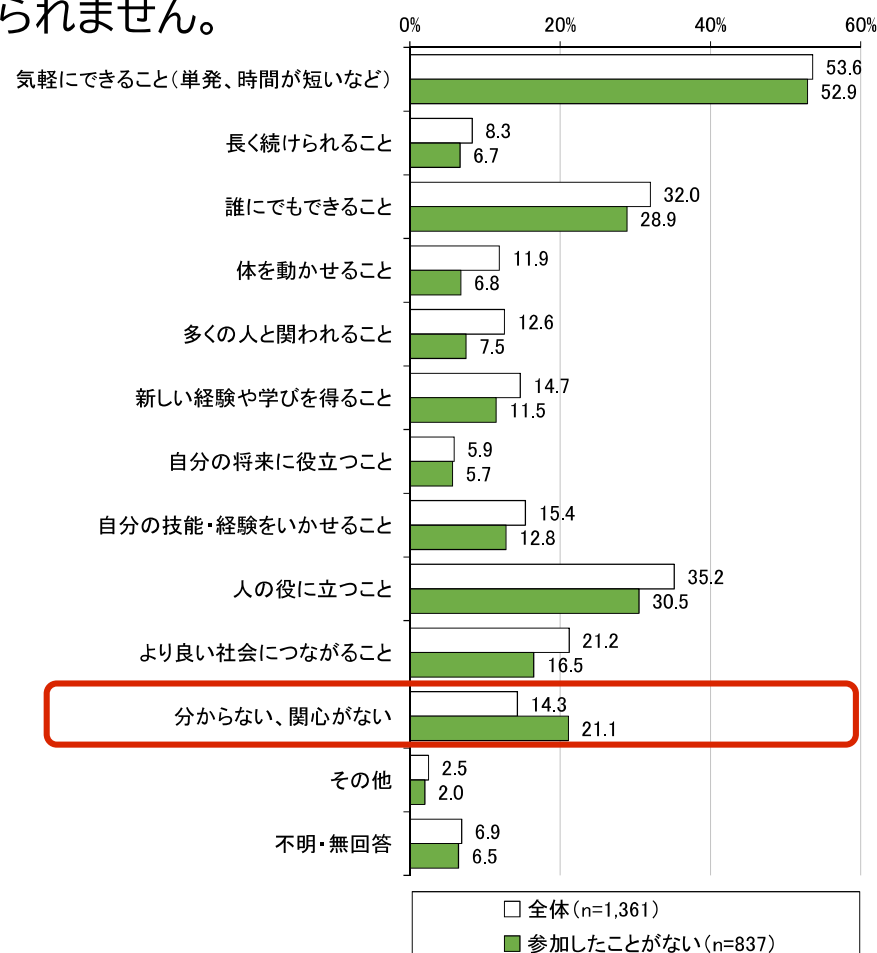
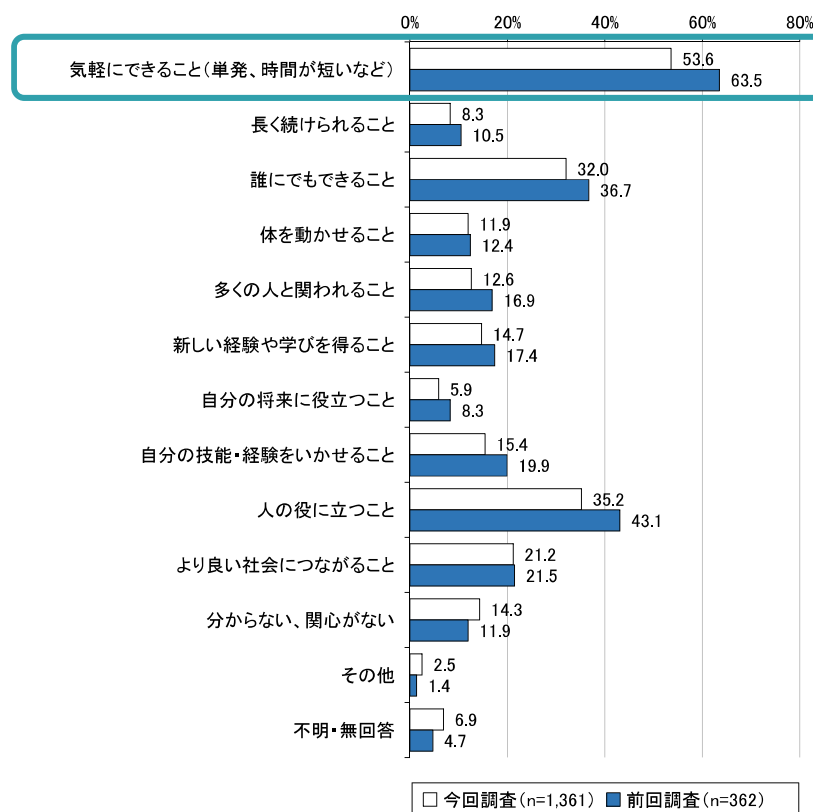
※成木地区はサンプルが20件以下と少ないため、参考値として掲載しています。



⑥ ボランティア活動に参加しようとする際に重視すること【問28】＜前回と同じ設問＞

- ボランティア活動に参加しようとする際に重視することについて、市全体では「気軽にできること(単発、時間が短いなど)」が53.6%と最も多く、次いで「人の役に立つこと」が35.2%、「誰にでもできること」が32.0%となっています。前回の調査と比較すると、「気軽にできること」が9.9ポイント減少しています。
- ボランティアに参加したことがない層では、「分からない、関心がない」が全体に比べて6.8ポイント高くなっています。それ以外では市全体と大きな差はみられません。

ボランティア活動に参加しようとする際に重視すること



① 社会福祉協議会、民生委員・児童委員の認知度【問9、10】＜前回と同じ設問＞

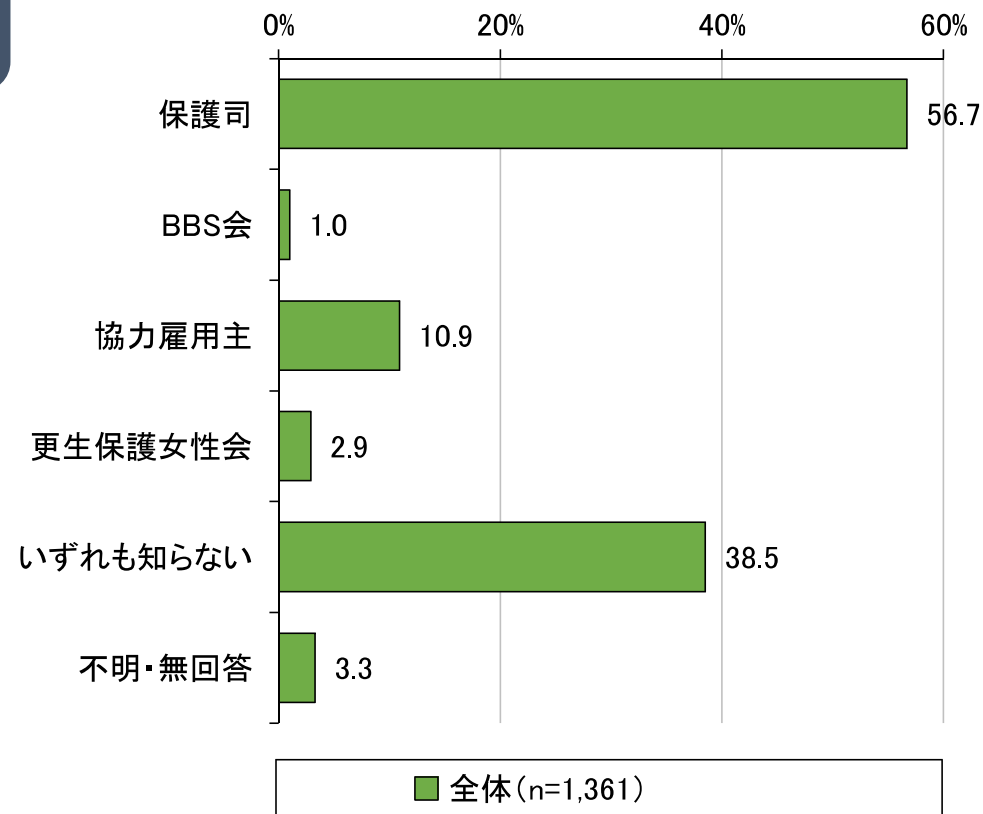
- 社会福祉協議会を知っている割合は市全体で46.4%、民生委員・児童委員を知っている割合は51.7%、地域福祉コーディネーターを知っている割合は9.5%となっています。
- 前回の調査と比較すると、「民生委員・児童委員」の認知度が10ポイント減少しています。
- 「孤独感が高い人」においては、社会福祉協議会、民生委員・児童委員ともに認知度が低く、いずれも知らないが高くなっています。
- 一方、地域福祉コーディネーターについては、やや認知度が高くなっています。

社会福祉協議会、 民生委員・児童委員、地域福祉 コーディネーターの認知度	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	地域福祉コーディネーター	いずれも知らない
前回(5年度)の 結果(362件中)	50.6%	61.9%	—	18.5%
市全体の結果 (1,361件中) 	46.4%	51.7%	9.5%	20.7%
孤独感が 高い人の結果 (61件中) 	34.4%	34.4%	13.1%	34.4%

① 犯罪や非行をした人の更生を支援する、民間協力者の認知度 【問33】 <新規の設問>

- 犯罪や非行をした人の更生を支援する、民間協力者の認知度についてみると、「保護司」が56.7%と最も高く、次いで「いずれも知らない」が38.5%、「協力雇用主」が10.9%となっています。

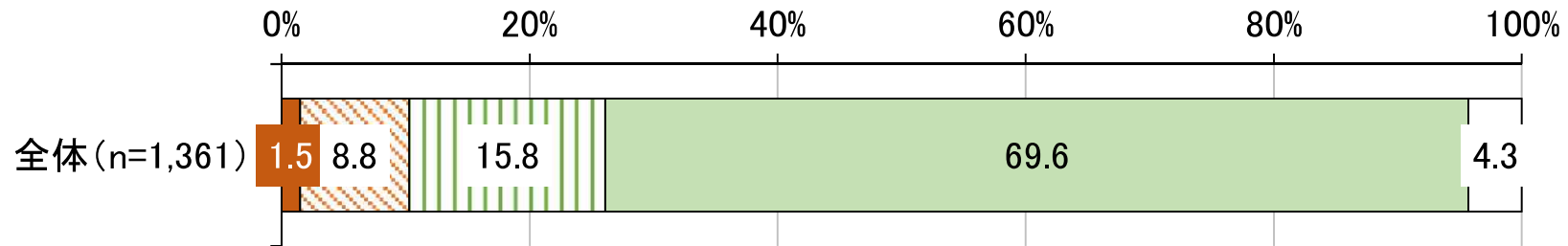
犯罪や非行をした人の更生
を支援する、民間協力者の
認知度



② 社会を明るくする運動の認知度 【問34】 <新規の設問>

- 社会を明るくする運動の認知度についてみると、「運動の名称を聞いたことがないし、知らなかった」が69.6%と最も高く、次いで「運動の名称は聞いたことがあるが、内容は知らなかった」が15.8%、「知っているが、参加したことはない」が8.8%となっています。

社会を明るくする運動の 認知度



- 知っているし、参加したことがある
- ▨ 知っているが、参加したことはない
- ▤ 運動の名称は聞いたことがあるが、内容は知らなかった
- 運動の名称を聞いたことがないし、知らなかった
- 不明・無回答

③ 再犯防止に向けて地域全体で必要な取組 【問35】 <新規の設問>

- 再犯防止に向けて地域全体で必要な取組についてみると、「居場所や社会参加、就労につながる活動の場づくり」が48.6%と最も高く、次いで「就労支援」が43.9%、「地域住民の理解促進」が32.8%となっています。

再犯防止に向けて地域全体
で必要な取組

